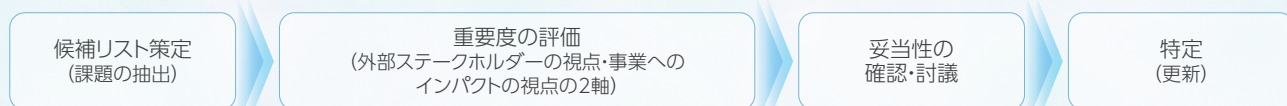


マテリアリティ特定プロセス

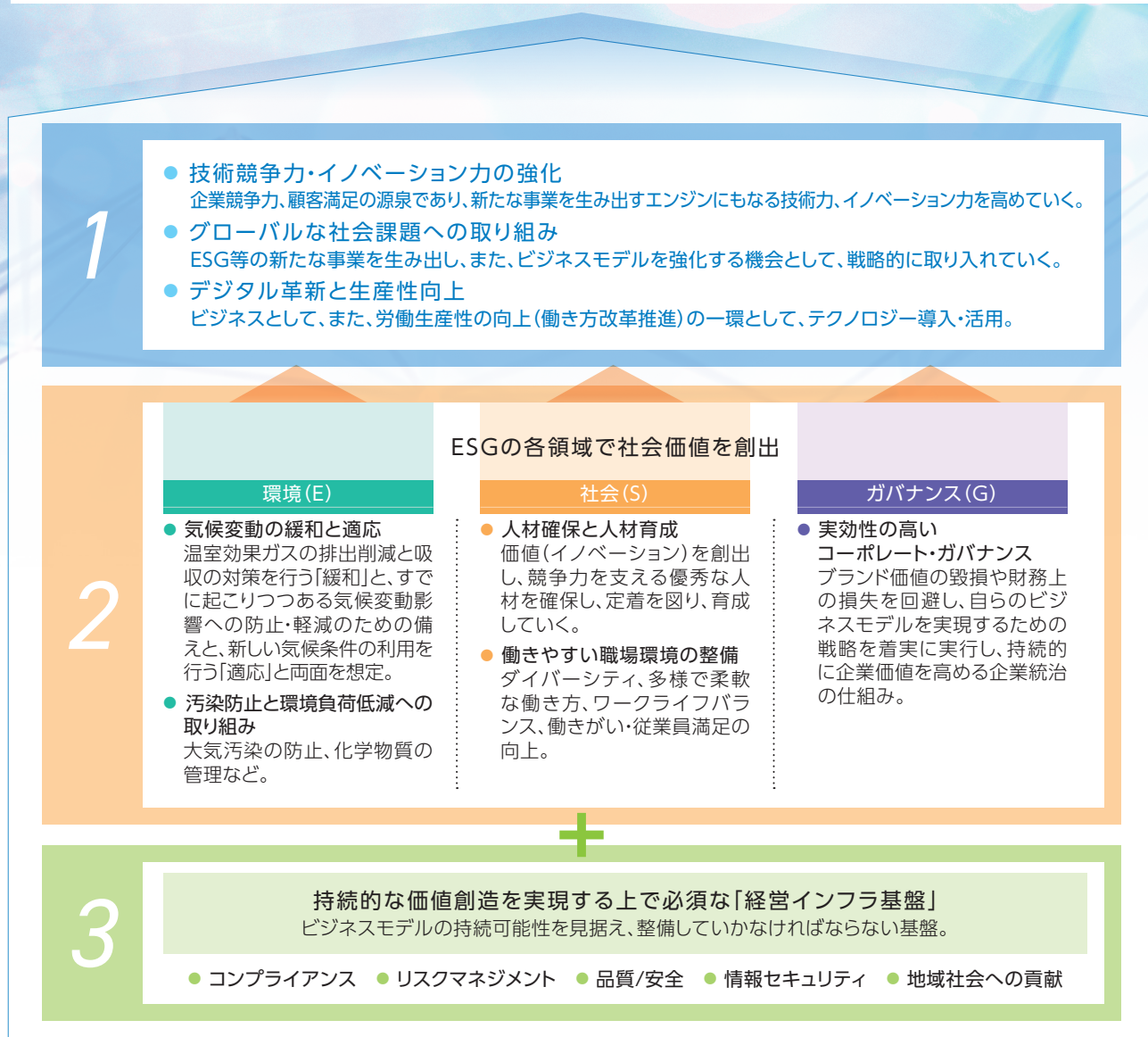
社会的責任に関わる従来型・網羅視点の各種フレームやガイドラインに加え、統合報告フレーム、SRI(社会的責任投資)の視点、グローバルリスク、SDGsなど、サステナビリティを取り巻く新たな課題も幅広く考慮に入れ、マテリアリティ候補を設定しました。外部基準による重みづけ評価として外部フレーム・ガイドラインに基づいた、社会全般の認識としての重みづけに加え、当社の主要な顧客のマテリアリティに基づいた客先目線の重みづけを定量化・可視化しました。なお昨年は、CEOサクセッションプランや、取締役スキル・マトリックスの作成を実施しました。これらを展開するプロセスでは、昨年見直しを行ったマテリアリティの考え方が活かされています。



マテリアリティ体系

「持続的な価値創造の実現」を可能とするビジネスモデルの構築のため、当社の強みやDNAを活かした8つのマテリアリティを1.経営・事業戦略に直結する項目と、2.社会価値を創出する項目に分けて特定し、さらにそれらを実現するうえで必須な3.「経営インフラ基盤」を整理しました。

〈目指すべき方向性〉「持続的な価値創造の実現」を可能とするビジネスモデルの構築



持続可能な価値創造の実現に向けて



事業環境が大きく変化するなか、「10～20年後の産業構造、社会環境の変化を見据え、需要の変化にしっかり対応し競争優位を築くためには、現行のビジネスモデルの延長線上の議論では不十分」「外部動向を戦略的に取り込みビジネスモデルを補強し、事業ポートフォリオ全体の価値を高めていく必要がある」との認識のもと、当社においては2019年度より継続的に、取締役会メンバーによる長期戦略の議論を進めています。2021年度は、第1回目のフリーディスカッションを7月10日に実施しました。

今回は特に、新しく2名の社外取締役が加わったことで、取締役会の多様性・専門性のさらなる強化が図られました。当日は、

各メンバーがバックグラウンドや知見を活かしつつ、気候変動・エネルギー、天然資源、健康・医療、食料、宇宙、デジタル革新など幅広いテーマで、ESGやSDGsの視点も含め、将来性や市場性等に関する活発なディスカッションを行いました。

秋には第2回目の実施を予定しています。今後、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けた長期ビジョン・長期戦略、それらに適合した次期・中期経営計画の策定につなげ、会社としてできる限りの一貫した流れの中でメッセージを打ち出すことを目指しています。

グローバルな社会課題への取り組み ～SDGs(持続可能な開発目標)への対応～

大気社グループが事業を通じて貢献する主なSDGs

大気社グループは、持続可能な社会の実現のために世界全体で取り組む共通目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」を支持し、より事業への結びつきが強い目標を中心にSDGsの達成に向けた取り組みを進めています。

● SDGsに貢献する大気社の取り組みの例

社会へのインパクト	大気社の取り組み
目標2 持続可能な食と農業	<ul style="list-style-type: none"> ● 植物工場事業への取り組みを通じ、安定して食料が生産・供給できる持続可能な農業の推進に貢献(天候に左右されず365日安定した計画栽培/グリーンな環境での完全無農薬栽培)
目標3 すべての人に健康と福祉を実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 医薬品の製造プロセスでの最適環境の実現に、当社固有の高度な室圧制御技術や、これまで多く手がけてきた実績・ノウハウを生かし貢献 ● 空調制御技術を用いた新型コロナウイルス感染防止への貢献 ● 医療従事者向けにウイルス感染リスク低減を実現する移動式高性能エアバリアユニット「Air Infection Block Plus(通称AIB+)」を開発 ● ウイルス感染リスク低減仕様・避難所用シェルター「バリアキューブ」を開発 ● VOCを無害化する排気処理技術により、大気汚染防止に貢献
目標7 クリーンなエネルギーへのアクセスの確保	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー効率の高い技術の開発・普及の促進 ● 太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・バイオマスなど再生可能エネルギーの導入 ● 水素などを含む次世代エネルギーの取り組み ● 自動車塗装設備におけるさらなる低温排熱回収の検討、コンパクト化、乾燥炉焼き付け温度低温化などの技術開発の推進
目標9 持続可能な産業化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● IoT・AIなどを活用した新たなソリューションの開発推進 ● 工場・ビルのスマート化に際して、革新的なICT技術を取り入れ、生産装置の稼働状況・人員・室内環境データをもとに循環風量を制御する空調システムを開発 ● IoT・AIを活用して塗装工場における稼働停止や品質不良発生時の要因解析を行うシステムの開発・事業化 ● 自動車塗装システムにおけるロボット技術を応用し、さまざまな工程の自動化に取り組む ● 高塗着効率塗装システムの開発・商品化(100%塗着効率を目指す)
目標11 持続可能な都市および人間居住の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もが健康で快適に暮らせる持続可能かつ強靱な建築設備の構築 ● 建築設備の長寿命化への取り組み
目標12 持続可能な消費生産形態の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 施工現場における廃棄物の排出削減、化学物質の適正管理 ● 大気・水・土壌への放出削減 ● 環境負荷の小さい建築設備の提案・供給、グリーン調達の推進 ● 植物工場産野菜のロングライフ化による食物ロスの削減
目標13 気候変動とその影響への具体的な対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社の設計施工による設備の運用段階におけるCO₂排出に関し、長期的な削減目標のもと積極的に排出削減に取り組み、脱炭素社会の実現に貢献 ● 「環境システム事業」2013年度を基準年とし、2030年までに25%削減、2050年までに80%削減を目標とする ● 「塗装システム事業」2050年には自動車1台当たりCO₂排出量の実質ゼロ化の実現を目指す(自社独自の自動車塗装ラインのエネルギー試算モデルによる) ● 気象変動や自然災害に対するレジリエンス・適応策の一環としての植物工場事業の推進